

## 提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

### ツールとひとがあつまるおおらかな屋根

〈提案の趣旨〉

三河安城駅周辺は豊かな居住エリアと研究開発企業の集積により、多くの居住者と就労者が生活するまちです。2026年の多目的交流施設（アリーナ）の開業に伴い、さらに駅前広場の役割の需要度は増し、滞留と移動の両方の機能を備えた懐の深い場所が求められます。

そこで矢総公園とマチナカプレイスに円弧状のおおらかな屋根をかけます。ふわりとカーブを描く屋根は三河安城駅から多目的交流施設（アリーナ）をつなぐ役割を果たします。また、屋根と既存ビルの壁面に囲われた広場は劇場のような場所になり、様々な活動の受け皿となります。表情のある立体的な屋根によって移動と滞留の場所をつくります。

屋根の下にはまちをつかいたおすためのツールとひとがあつまります。

ここでいうツールとは、様々なアクティビティを実現させるための機能のことです。

腰掛けるためのベンチや縁台、夜のまちを明るく照らす照明や充電にも使えるコンセント、備品を収納するための倉庫、災害時にも使えるオープンキッチンやトイレ、レンタサイクルスペース、マルルシェ、キッチンカーのためのスペース、テラス席、パブリックビューイングのためのスクリーンなどです。屋根は地域住民や利用者の活動を支えるための重要なインフラとなります。屋根は地域住民や利用者の活動を支えるための重要なインフラとなります。

行政や運営主体との対話や、現地での社会実験を繰り返すことで関係者全員が当事者となることが大切だと考えます。地域住民の日常に寄り添い、まちを訪れる人がワクワクするような、まちの顔となる駅前広場を目指します。